

妊婦さん・子どものいるご家庭のみなさまへ

タバコ（受動喫煙）が子どもに与える影響

妊娠中の喫煙

切迫流早産・低出生体重児
胎児発育遅延(酸素や栄養が不足)

中耳炎
う歯（むし歯）



知能低下 (母親の妊娠中の喫煙本数が多いほど、子どもの知能指数が低くなる傾向があるとされています)

喘息・痰・息切れ

発育の遅れ

乳幼児突然死症候群（SIDS）

※成長期の子どもがタバコの煙にさらされると、**大人になった時の喫煙習慣やがん、生活習慣病**になる可能性が高くなります。

喫煙の影響

二次喫煙

second-hand-smoke
受動喫煙

タバコを吸っている人の周囲にいる人への影響です。
タバコの先から出る煙はフィルターを通らないため、喫煙者より、さらに有害です。
換気扇の下やベランダで吸ったとしても煙は流れます。



三次喫煙

third-hand-smoke
残留受動喫煙

有害物質の残留による影響です。
タバコの煙に含まれるニコチンなどの化学物質は、壁やカーテン、衣服などに付着し、煙が消えた後も有害物質として放出され続けます。
衣服や物、吐く息にタバコのおいが残っているということは、有害物質も残っているということです。

一次喫煙

first-hand-smoke
能動喫煙

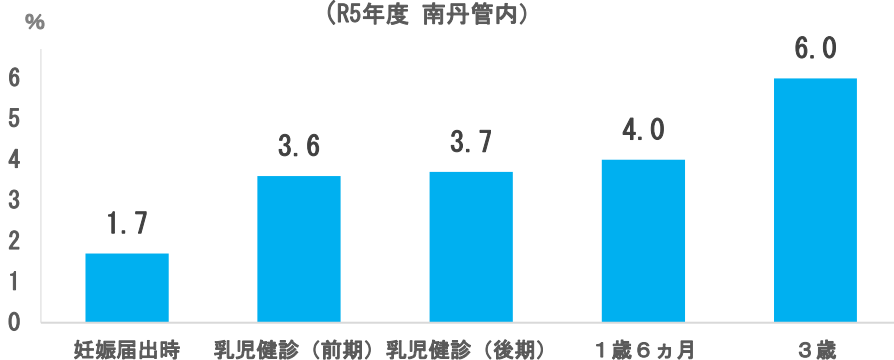
喫煙者本人がタバコの煙を吸うことです。
本人への影響：全身のがん/慢性閉塞性肺疾患/心筋梗塞/喘息/脳卒中/歯周病などが増加
妊娠中の喫煙は、胎盤を通して赤ちゃんにも有害物質が届きます。

子どもが乗る車内では、絶対にタバコを吸ってはいけません。
子どもが乗っていないくても、有害物質は長時間残ります。



乳幼児健診等における母の喫煙率

(R5年度 南丹管内)



妊娠中や産後しばらく禁煙を頑張っていたお母さんも、子どもが大きくなるにつれ再喫煙してしまう現状があります。また、3歳児の父親の喫煙率は、約30%と高い状況にあります。

子どもの誤飲事故 第1位はタバコです



タバコが浸かった液体を飲み込んでしまうと、ニコチンが速やかに吸収され、吐き気や下痢等の中毒症状が起こる危険性があります。
⇒お近くの**医療機関を受診**してください！

新型タバコもタバコです
加熱式タバコからも
ニコチンや有害物質が出ています

禁煙したい方！
南丹保健所のホームページ、
知って得するタバコの話
禁煙外来編 をご覧下さい。

詳しくは
こちら→

